

ササノハガイ (トンガリササノハガイ) *Lanceolaria oxyrhyncha* (Martens)

【選定理由】

本種の属するイシガイ科貝類は、河川の下流域や平野部の用水路などの流れが緩やかで底質が砂泥で水質の良い場所を生息場所としている。県内ではこのような場所はほとんど破壊されてしまったため、1960年代には広い分布域を持ち多産したイシガイ科貝類全体(愛知県科学教育センター, 1967)の生息が危機的状況である。本種の県内における生息場所は木村(1994)を含めて現在9地点しかない。絶滅の可能性が非常に高い種と評価された。

【形態】

日本産イシガイ科貝類としては中型で細長く、殻長10 cm程度であるが、止水産の個体は大型になる傾向がある。後端が鋭くとがり、殻長に比べて殻高が非常に小さく、輪郭は細長い笹の葉状。和名もこの形に由来する。

【分布の概要】

【県内の分布】

1960年代中頃までは木曾川水系の日光川、五条川、矢作川水系、豊川水系などで広く生息が確認されていたが(愛知県科学教育センター, 1967)、県内では河川下流域や平野部の小川や用水路の生息環境は壊滅的で、木村(1994)では5カ所でのみ生息が確認されたが、1カ所では1998年から2001年の現地調査では再発見されていない。それ以外に、豊橋市に生息地が1地点ある(松岡・伊澤, 1993)。2005年木曾川本流の調査で生息地が追加されたが、個体数は非常に少ない(木村, 2006)。岡崎市内で過去に1ヶ所で生息が確認されていたが、現在生息が確認できない(木村, 2014)。

【世界及び国内の分布】

日本固有種。愛知県以西の本州、九州の河川下流域、湖沼に分布する。

【生息地の環境／生態的特性】

上述したように、河川の下流域や平野部の用水路などの流れが緩やかな砂泥底で水質の良い場所を生息場所としている。

【現在の生息状況／減少の要因】

上述の通り生息地の破壊が極めて深刻で、絶滅が危惧される。

【保全上の留意点】

水質の浄化、無秩序な護岸工事を避けることは当然であるが、イシガイ科貝類はグロキディウム幼生の時期にヨシノボリのような底生淡水魚類に寄生しなければ成長できない。従って他の淡水生物を含めた生息環境の保全が不可欠である。

【特記事項】

現在豊橋市の生息地は本種の分布東限である。  
岐阜県(2010)では絶滅危惧Ⅱ類にランクされている。

【引用文献】

- 愛知県科学教育センター, 1967. 愛知の動物. 222pp.  
岐阜県, 2010. 岐阜県の絶滅のおそれのある野生動物 動物編 改訂版.  
([https://www.pref.gifu.lg.jp/kurashi/kankyo/shizenhogo/c11265/index\\_17185.html](https://www.pref.gifu.lg.jp/kurashi/kankyo/shizenhogo/c11265/index_17185.html))  
木村昭一, 1994. 東海地方の淡水貝類相. 研究彙報(第33報):14-34. 全国高等学校水産教育研究会.  
木村昭一, 2006. 愛知県におけるミズゴマツボの産出記録. かきつばた, (32): 22-25. 名古屋貝類談話会.  
木村昭一, 2014. トンガリササノハガイ. in: レッドデータブックおかげさ 2014. p. 321. 岡崎市.  
松岡敬二・伊澤伸恵, 1993. 豊橋市荒神池のトンガリササノハガイ, 豊橋市自然史博物館研究報告第3号: 37-39.

(木村昭一)



上段: 木曾川中流域, 2006年10月31日,  
下段: 西尾市矢作古川, 1993年6月12日, 共に木村昭一採集